

✕ 同窓会からのあいさつ

慶應義塾大学整形外科 同窓会長 堀内 行雄 (52回)



2011年11月に慶大整形外科同窓会長に就任し、9年が経過しました。今年は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延のため、当たり前であった日常が大きく変化した年でした。両教授と相談し今年と同窓会誌「ふるさと」発刊は断念し、このニュースレターを発行致しました。

COVID-19のため3月以降の国内外のほとんどの学会、研究会、講演会や会議などが中止や延期、WEB開催など、形態を変えた開催になりました。4月16日からの全国緊急事態宣言は5月25日に解除されましたが、終息にはほど遠い感じですが、全世界の人々の暮らしは一変し、経済活動も抑制され、戦後最大の大恐慌の発生が懸念されます。

東京2020オリンピック・パラリンピックは延期となり、連合三田会は中止になり、三代会・慶應義塾大学病院・慶應医学会の合同100年式も延期になりました。秋の教室公開セミナーはWEB配信になりました。このような中で11月28日土曜日に予定されておりました今年と同窓会委員会、総会並びに懇親会も、一堂に会して行うことは困難となり、形態を変えて委員会は11月26日木曜日にWEB会議、総会もWEB配信や同窓会ホームページ「ふるさと」（HP）への掲載を行い、懇親会行事の一部もHP上に掲載します。WEB参加の難しい先生には、書面なども利用しますので、どうぞよろしくお願いいたします。また、本年も佐々木正先生（42回）には、新準会員と専修医修了者に先生の著書計47冊を寄贈していただきました。ありがとうございます。

ニュースレターは2017年11月に1号を発行し、今回は同窓会誌「ふるさと」発刊の代わりで3号目となりました。このレターで1年間の同窓会、教室、義塾、医学部、病院、さらに日整会等の動向と現状などを知ることができます。また、教室の現状、新専攻医（準会員）の紹介などについても、今年は、このレターやHPでご確認ください。

慶大整形外科の両教授は就任後5年目となりますが、期待通りの活躍を続けています。松本守雄教授（65回）は、昨年5月より日整会の理事長になられました。このような大混乱の中、日整会の舵取りには特に多くの困難が付きまわったと思います。さらに慶大

病院副院長も2017年8月からされており、そのほかの役職も多くされています。日整会理事長の任期満了後には日整会学術総会会長（2024年5月開催予定）もしていただかなければなりません。同窓会会員の皆様の絶大なるご支援、ご協力をお願いします。

中村雅也教授（66回）は、教室の研究担当部門を担当されておられ、自らもiPS細胞を使用した損傷脊髄再生についての研究に取り組んでいます。2017年10月より医学部長補佐をされ、そのほかの役職も多くされています。2022年4月21日～23日には第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会をパシフィコ横浜で開催予定です。両教授のますますのご活躍をお祈り申し上げるとともに同窓会は可能な限り支援して参ります。

さて、慶應義塾大学医学部整形外科学教室開講100周年は、2022年（令和4年）6月16日になります。記念祝賀会は、**2022年6月11日土曜日にThe Okura Tokyo（ホテルオークラ）で開催**される予定です。コロナ禍で大変な折ではございますが、この100周年記念行事を成功させるために2020年10月1日から同窓会から100周年記念事業に対するご寄付をお願いしております。申し訳ありませんが、今回も寄付控除ができません。しかし、100年に一度のお祝いですので、慶大整形外科学教室並びに同窓会として胸を張れるような「慶應らしい」式典にしたいと考えておりますので、ご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。現在まで既に4回の実行委員会が開かれました。教室・同窓会にとって教室100年目の節目の重要な行事になります。また、祝賀会同様に「教室開講100周年記念誌」を発行します。現在その原案を検討中です。来年には、同窓会誌「ふるさと」の特集号と合わせて皆様からのご寄稿をお願いいたしますので、どうぞよろしく申し上げます。この担当もこのニュースレター同様、松村昇先生（81回）が中心に頑張ってくれています。同窓会員の皆様のご支援とご協力を切にお願いします。

HP「ふるさと」は、2015年2月から5年が経過し、セキュリティ向上を目的に今年4～5月に井口傑先生（49回）にサーバーを移転していただきました。これによりセキュリティが向上しアクセススピードもかなり速くなりました。

2020年6月25日にHPの会員ページに私が新HP「ふるさと」を閲覧し、その案内を載せさせていただきましたので、是非ともご覧いただきたいと存じます。このHPを見ていただければ、同窓会・同窓会員のこと、その時点の最新の教室情報も教室協議会報告などで知ることが出来ます。是非お役立てください。また、今年同窓会総会や懇親会の資料などもたくさん掲載します。

同窓会役員は、同窓会をさらに盛り上げるように頑張ってくれています。慶大整形外科が素晴らしい教室・同窓会であり続けるためには、両教授ならびに教室員を含む同窓会会員全員が、臨床・研究・教育など多方面で「**慶大整形外科の同窓であるという看板を背負って誇りをもって頑張る**」ことが基本であると思っています。同窓会長と致しましては、さらに皆様から同窓会の活性化に向けて活発なご提案やご助言をいただきたいと思っております。今後とも同窓会会員が結集して両教授を盛り上げ支援し、更なる高みを目指せるように皆様からのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

✕ 教室からのあいさつ

慶應義塾大学整形外科 教授・教室主任 **松本 守雄** (65回)



平成27年1月に現在の立場を頂いてから6年弱が経過いたしました。教室員・同窓の先生方のご協力を頂きながらなんとか無事に教室運営を行ってこれたのではないかと思います。この場をお借りいたしまして皆様のご協力に感謝を申し上げます。

今年はなんと言いましても新型コロナウイルス感染症に尽きると思います。極めて微小な未知の病原体により、生活・職場環境は激変し、われわれのものごとに対する価値観は根底から覆り、世の中は非接触型社会へとパラダイムシフトを生じました。本来であれば「ふるさと」を刊行する年でしたが、こ

れも新型コロナの厳しい状況に鑑み堀内同窓会長とも相談の上で断念し、代わりにニュースレターの発行を行うこととなりました。

この1年間の教室内外の出来事について振り返ってみたいと思います。

1) 新型コロナウイルスへの対応

ご存じのように慶應病院では3月下旬以降に複数のクラスターが発生したことを受け、病院機能を一気に落として、感染制御モードとなりました。人事や外勤の一時的な凍結などにより関連病院の先生方にもご迷惑をおかけいたしました。手術数も段階的に減らし、4月13日からは救命的な手術を除いて予定手術は原則中止とし、事実上手術センターの機能を停止させました。複数病棟が閉鎖となり、整形外科のメイン病棟である7A病棟もしばらく閉鎖をされておりました。5月11日から段階的に手術を再開し、7月からはほぼ従来通りの手術センター運営となっています。

教室では4月1日に新レジデントを迎えましたが、手術もほとんどなく外来や入院患者も少ないため、研修が十分に出来ない状況でしたが、スタッフによるオンライン講義が行われ、大学内外のレジデントや初期研修医の参加を得て、なんとか卒後教育を継続することが出来ました。整形外科診療がほぼ停止している間、教室員の一部は自宅でのテレワーク、一部は新型コロナ患者軽症例の病棟担当やPCR検査担当などのバックヤードの支援に回りました。

病院の方針もあり多くの会議やカンファレンスはZOOMによるオンラインで行われ、教授回診も感染防御の観点から患者を回ることは行わず、手術症例・問題症例に関して参加者を絞った形のカンファレンスでチェックするようしております。新型コロナ感染下でこれまでとは異なる新しい活動形態を強いられています。教室のアクティビティは極力維持しつつ、アフタコロナに生かせるような教室運営を行っていきたくと考えています。

2) 教室内の活動

人事について、まず関連大学では令和2年4月1日に市村正一先生（59回）の後任として細金直文先生（76回）が杏林大学主任教授に就任されました。市村先生は引き続き杏林大学附属病院の病院長をお務めになります。また、橋本健史先生（63回）が慶應義塾大学スポーツ医学研究センター教授に、8月1日には国際医療福祉大学三田病院の長島正樹先生（80回）が病院教授に就任されました。関連病院では4月1日に谷戸祥之先生（68回）が国立病院機構村山医療センター病院長、7月1日には鎌田修博先生（61回）が神奈川県厚生連伊勢原協同病院病院長に就任されました。各先生方には心からのお祝いを申し上げるとともに、新しい立場で是非ご活躍頂きたいと思っております。

昨年度（2019年）の慶應大学の診療および研究業績の概要は以下の通りです。

診療：慶應義塾大学病院における昨年の整形外科手術数は2288件であり、2018年度より若干減少しましたが、大学病院本院としては日本でも随一の数であり、病院収益にも大きく貢献しております。内容も人工膝関節ロボット支援手術、椎間板ヘルニア酵素注入療法、膝培養軟骨細胞移植など新規技術を用いた手術の件数も増え、従来から手がけている脊柱変形、髄内腫瘍、悪性骨軟部腫瘍などの大学病院ならではの高難度手術もしっかりと行っています。一方で、私学の大学病院としてcommon diseaseである四肢関節や脊椎の変性疾患も広く行っておりますので、ご希望の患者の方がおられましたら是非スタッフ宛にご紹介いただければ幸いです

臨床研究：昨年度の英文論文数は116編、各学会などにおける教室員の受賞数は16と2018年度と比較して前者は微増、後者は微減となりました。関連病院と大学が一体となり行う多施設研究も各診療班で多少の温度差はあるもののしっかりと行われております。繰り返しになりますが、関連病院と大学が人事のみならず、臨床研究でも深く結びついていくことは双方の発展にとって非常に重要であり、研究や卒後教育に力を入れている関連施設によりメリハリをつけて人材投入していく必要があると考えています。

3) 新専攻医

2018年度より日本専門医機構による新専門医制度が始まり、今年は3年目の専攻医となりました。専修医担当（当時）の藤田順之先生（79回、現藤田医科大学教授）を中心に多くの教室・関連病院のスタッフの方々が熱心な勧誘活動をしてくれたおかげで、今年は慶應病院が基幹施設となる1型に19名、慶應関連施設が基幹施設となる2型に17名と非常に多くの専攻医が入ってくれました。熊本大学宮本健史教授（73回）からも依頼があり、シーリングがかかっている熊本から2名の専攻医の方を慶應の2型プログラムにお受けすることになりました。予想はされていましたが2021年度はついに東京にもシーリングがかかることになりました。慶應大学に割り当てられた専攻医の枠もこれまでの20枠から14枠（予定）と大幅に少なくなり、専攻医獲得が非常に困難になります。ただ幸い、この事態を見越して済生会宇都宮病院、埼玉メディカルセンター、東京歯大市川病院、東京医療センター、川崎市立川崎病院、静岡赤十字病院を基幹病院とする2型プログラムを多く設定しておりましたので、これらの病院と調整をしながら慶大整形全体でなるべく多くの専攻医を受け入れていきたいと思っております。専攻医の教育は大変重要ですので関連病院の先生方にも是非ご協力をお願いいたします。

4) 慶應義塾大学病院

新型コロナによる慶應病院が受けた影響・ダメージとそれらへの対応の詳細については最近の医学部新聞各号に記載されていますのでご参照ください。

先述のように特に4-5月は手術センターも事実上稼働を停止しておりましたので、急ぎの患者の方々は関連施設に引き受けていただきました。ご協力を頂いた各施設の先生方には感謝申し上げます。現在は全入院患者にPCRを行い、緊急入院は個室対応とするなど感染防御に注力しつつ、診療機能の復元を図っております。ただ、他の医療機関と同様に新型コロナによる病院収支へのダメージは深刻で、今後いかにこれを立て直していくかが課題となっています。

明るい話題としては2号館の改修がほぼ終了し、この9月に病棟、外来、事務などの各部門がそれぞれの仮住まいから2号館に移転しております。今後は1、2号棟、中央棟の解体、外構整備が行われ、2022年に新病院のグランドオープンとなる予定です。

5) 日本整形外科学会

2019年5月の理事会で日本整形外科学会理事長に選任されてから、副理事長の鎌田修博先生（61回）など4名の副理事長、他の役員の方の先生方のご協力を頂きながら日整会の運営を行ってきました。昨年はコロナの影響も無く、タイ、台湾、フランスなど海外の学会に日整会を代表して出席してまいりました。どの国でも日本の整形外科に対する敬愛の念をもった接遇を受け、これまでの先人のご努力の賜と実感いたしました。今年に入ってから新型コロナ対応に追われる日々でした。総会、骨軟部腫瘍学術集会、基礎学術集会の3学術集会、社員総会などは全てオンライン開催となり、また専門医試験も各都道府県でのcomputer based testingを行うことといたしました。このような対応をしつつ、4月には手術症例登録システム（JOANR）の稼働、5月の総会では定款改定、来年度からの日整会誌オンライン化など日整会が行うべき事業は進めて参りました。今後もよりよい日整会を構築するため努力する所存ですので、先生方には引き続きご協力をお願い申し上げます。

5) 今後について

ウィズコロナ・ポストコロナの時代にあって、これまでとは認識を変え、先を見据えた教室運営を考えていく必要があります。また、教室は2022年に開講100周年を迎えますが、次の100年に向けて発展していけるよう、人材の育成にしっかり取り組む必要があると考えます。

私自身は2024年度に開催される第97回日本整形外科学会学術総会の会長に立候補させていただく予定です。2021年5月に行われる選挙において会長に選任された暁には慶應らしさにあふれる未来志向の学術総会開催を目指したいと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

以上、教室の過去1年の経緯と現状について記しました。慶大整形が今後さらに発展するよう努力を続ける所存ですので、教室・同窓の先生方には引き続き教室運営へのご支援をいただければ幸いです。



まずは、新型コロナウイルスの蔓延により関連病院をはじめ、同窓会の皆様におかれましては大変な日々をお過ごしのことと思います。このような時だからこそ、教室、同窓会が一丸となってこの難局を乗り切りたいと思います。引き続きご支援とご協力の程宜しく御願い申し上げます。

教室の運営に関しては、これまでにない二人教授体制もお互いの強みを活かしながら、順調に推移していると思います。これもひとえに、教室員、同窓会員の皆様のご協力の賜であり、この場を借りて御礼申し上げます。教室の運営や大学病院・日整会関連は松本教授が書かれると思いますので、私は

教室の研究、医学部、塾におけるこの1年間の進捗状況と関連学会の報告させていただきます。

1) 教室の基礎研究の現状

整形外科科学教室の研究体制は、整形外科運動器科学研究室、総合医科学研究所（リサーチパーク）の生体工学・歩行解析研究室（6N6）、筋代謝・再生研究室（4N8）、脊髄再生研究室（5S7）の4つの研究室からなりますが、教室の人事異動や諸事情によりに幾つか大きな変化がありました。

運動器科学研究室は、二木康夫准教授（72回）が中心となって運営しています。熊本大学の宮本健史教授（73回）に、一部の学位研究を継続して指導頂いており、この場を借りて御礼申し上げます。研究内容は、骨代謝、関節軟骨、靭帯など多岐にわたり、学内外の基礎教室、製薬企業、ベンチャー企業等との産学連携で共同研究を進めています。サイフューズ社との関節軟骨再生に関する前臨床研究はほぼ終了し、医師主導治験に向けてPMDAとの協議をすすめています。靭帯に関しても、従来の自家腱を用いた膝前十字靭帯再建術後の成熟を促進する細胞シートの取り組みや、慶應発ベンチャーとこれまでにない新たな素材を用いた人工靭帯の開発など、興味深い研究が多数行われています。

生体工学・歩行解析研究室は名倉武雄特任教授（71回）が中心となって運営しています。これまでリサーチパーク6階に研究室を構えておりましたが、諸事情により臨床研究棟の運動器科学研究室に併設する動物室を改修し、本年9月にこちらに移転しました。手狭になったため機能を分散し、カダバーを用いた研究はリサーチパーク地下1階のClinical Anatomy Laboratoryで、また歩行解析に関しては佐藤和毅教授（68回）のご配慮により2号館3階に移転したスポーツクリニック外来に床反力計を移設し、研究を継続する方針です。また、放射線診断科の陣崎教授と連携したデジタル画像データとバイオメカ融合によるバイオメカ研究は着実な成果が数多く出ており、今後の益々の飛躍が期待されます。

リサーチパーク4階の筋代謝・再生研究室は辻取彦助教（82回）を中心に運営しています。防衛医大の堀内圭輔准教授（73回）には、引き続き一部の学位研究を指導頂いております。研究テーマは、これまで行ってきた加齢性筋萎縮症の病態の解明と新たな治療法の開発や、腱板損傷に関するテーマ、椎間板の老化・再生、慢性疼痛に関する研究など多岐にわたる研究を行っています。

脊髄再生研究室では、脊髄再生医療の実現を目指して橋渡し研究を継続しています。急性期脊髄損傷に対する肝細胞増殖因子の企業主導治験は第1/2相試験を終了し、既に第3相試験を開始しており、数年以内には臨床の現場に届けることができると思います。また、亜急性期脊髄損傷に対するiPS細胞由来神経幹細胞移植に関しては、臨床研究で使用する細胞の全ての評価を終え、いつでも開始できる状況でしたが、新型コロナウイルスの蔓延を受けて見合わせておりました。北川病院長をはじめとする多くの病院関係者との協議を重ね、本年12月よりいよいよ開始となります。また、慢性期脊髄損傷に対するiPS細胞由来神経幹細胞移植に関しては、AMED再生医療実用化研究事業に本年度採択され、2023年の医師主導治験の開始に向けた準備を着々と進めております。

これらの研究室が中心となって、数多くの基礎研究の成果が出ており、米国整形外科基礎学術集会や国際幹細胞学会などの国際学会で数多くの授賞をしております。今後も慶應義塾大学整形外科から世界に発信できる基礎研究を数多く出せるように、体制をさらに強化していきたいと思っております。

2) 医学部および慶應義塾における研究の動向

① JSR社と慶應医学の融合（JSR-Keio Innovation Center: JKIC）

基礎と臨床一体型の医学・医療を展開する慶應医学部とライフサイエンス領域を戦略事業と位置づけるJSRとが連携することにより、健康長寿社会を支える新たな診断・治療技術や試料支援技術の確立を目指し研究を推進してきました。4つの戦略領域の一つであるDesigned Medical Device領域は、整形外科と放射線診断科が中心となり、他の診療科も巻き込みながら、数多くの研究を進めております。名倉特任教授の頑張りで、上肢班、下肢班、脊椎脊髄班から数多くの臨床応用が間近なプロジェクトが出てきています。

② 共創の場形成支援プログラム

戸山名誉教授が牽引し、慶應義塾が国際化への取り組みとして、川崎殿町キングスカイフロントを基盤として行ってきたリサーチコンプレックス事業は昨年度終了しました。本事業の成果をさらに発展させ、関東圏に国際バイオコミュニティを形成するための協議を重ね、慶應義塾を代表機関として、多くのアカデミア、企業、自治体を巻き込みながらチームを形成し、国の大型事業である共創の場形成支援プログラムに申請しております。次回、皆さんに朗報をお伝えできるように引き続き頑張りたいと思っております。

3) 関連学会について

日本脊椎脊髄病学会の理事を今年4月に退任致しましたが、国際委員会と専門医制度委員会の委員長を拝命致しました。また、第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会を担当させて頂くことになりました。会期は2022年4月21~23日で、横浜パシフィコノースで開催する予定です。教室員並びに同窓会の皆さんには色々とお願ひすることがあるかと存じますが、何卒ご協力の程宜しく御願ひ致します。

また、教室と縁が深い日本脊髄障害医学会と日本末梢神経学会の理事を拝命しており、教室からの基礎と臨床の学会発表を通して次世代を担う人材を育成し、両学会のさらなる発展に尽力していきたいと思ひます。

2022年には教室開講100周年という大きな節目を迎えます。ポストコロナ、ウィズコロナ社会を見据え、慶大整形の次の100年を担えるような人材を育て、医学部や病院、さらには慶應義塾の発展に寄与できるような整形外科学教室にして行きたいと思ひます。これまでの教室員、同窓会会員の皆様のご協力で感謝申し上げますとともに、引き続き教室運営へのご理解とご協力の程宜しく御願ひ致します。



2020年9月16日にweb上で開催された新専攻医”独立祭”

慶應義塾大学整形外科 教室幹事 **岩本 卓士 (79回)**



2019年4月より慶應義塾大学整形外科教室幹事を務めております79回生の岩本卓士と申します。教室幹事という大役を拝命して1年半が経過いたしました。就任当初は私に300名以上の教室員を抱えるこの大きな整形外科学教室の運営が務まるか不安でした。その不安は今でも変わりませんが、多くの貴重な経験により私自身の成長の糧となっていると感じています。

この度「慶大整形外科ニュースレター」の場をお借りして、1年間のご報告をさせていただきます。

この1年間で教室運営上大きな出来事が2つございました。1つ目は言わずもがなではございますが新型コロナウイルス感染症のパンデミックです。2020年3月、日本では年度末の卒業シーズンを境に社会状況は一変いたしました。慶應義塾大学病院におきましても院内感染の発生、初期臨床研修医の集団感染により新任医師の勤務停止、予定手術の延期、外来診療の実質的中止など、多くの対応を要し甚大な打撃を受けました。4月から関連病院に出向した教室員についても急遽出勤停止の措置を講じることとなり、関連病院の先生方には多大なご迷惑をおかけいたしましたこと、この場をお借りして心よりお詫び申し上げます。このような厳しい状況におきましても、関連病院医長の先生方からは温かいお言葉とご理解を頂き、また大学内では教室スタッフからチーフレジデント、レジデント、教室秘書まで一致団結し、どうにか4月の難局を乗り越えることが出来ました。特に4月に慶大整形外科の一員として期待に胸を膨らませて新しいスタートを切った専攻医の先生方には、期待を裏切る形で整形外科手術が殆どない状況での研修開始となりましたが、COVID-19入院病棟への対応を含め多くの非常事態に対して冷静に、お互い助け合い対応してくれたことには感謝の念に堪えません。まだまだ油断の出来ない状況は続いており、教室関連の多くのイベントが中止あるいはweb開催となり例年とは全く異なるスケジュールで進行しております。いわゆるwithコロナでの教室運営について、社会状況を鑑みながら安全面を最優先として検討を進めて参ります。

2つ目は、このような未曾有の災禍ですが2020年度は多くの新専攻医を獲得できたことは大変喜ばしい出来事でした。慶應大学I型に19名、関連II型基幹病院に17名の合計36名の専攻医を採用できたことは快挙であり、昨年度専修医担当の藤田順之先生（79回）、研修医担当の名越慈人先生（81回）を中心として関連病院の先生方と連携して勧誘活動を行った努力の結晶です。2021年度の専攻医採用枠に関しましては、遂に東京都がシーリング対象となるため採用人数が大幅に制限されることが確定しています。COVID-19の影響で対面での説明会、勧誘会が全く出来ない難局を迎えていますが、本年度専修医担当を引き継いだ名越慈人先生、研修医担当の鈴木拓先生（83回）を中心に、webでの勉強会、プログラム説明会、個別web面談を精力的に行った成果により、2021年度も多くの専攻医を獲得できる見込みです。新専門医制度によるシーリングは教室の連携施設体制維持に今後大きく影響する可能性があります。2型研修基幹病院と

の連携を密に行い乗り越える必要があります。教室幹事として適正な人員配置を行えるよう引き続き粉骨砕身努力いたします。

最後に、COVID-19の影響により対面でのコミュニケーションが大幅に制限されるという異常な社会状況の中、全く新しい環境での勤務を開始した専攻医の先生方、人事異動により職場環境が一変した先生方におかれましては、大変難しい半年間であったと思います。10月にも人事異動がございますが、各関連施設におかれましてはメンターを中心としてサポートを宜しくお願いいたします。一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆様のご健康をお祈り申し上げます。

慶應義塾大学整形外科 同窓会担当 **原藤 健吾 (78回)**



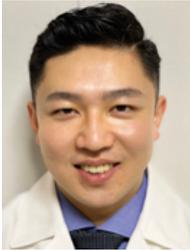
昨年2019年4月より教室の同窓会幹事を拝命しました。本年はCOVID-19の影響により、スタイルを変えて同窓会幹事会、委員会、総会、懇親会を行わざるを得なくなりました。

まず2020年10月1日にWEBで同窓会幹事会を行いました。半年前は不慣れだったオンライン会議もすっかり慣れたこともあり滞りなく進められました。幹事の先生方には平日の夜にもかかわらずご参加いただき厚く御礼申し上げます。その幹事会において議論がなされ、11月26日木曜日19時から同窓会委員会をWEBで、また教室と相談の上11月28日土曜日に総会を少人数の現地参加でメインは配信で行う形となりました。会計報告や新入会員の紹介など、同窓会員の先生方の承認をいただく事項も多くありますが、WEBによる委員会で承認いただき総会で報告させていただくという苦肉の策で行います。そして個人の挨拶などは全てふるさとHPを活用させていただくこととなりました。ふるさとHP管理者の井口傑先生(49回)には無理なお願いにもかかわらず快く引き受けていただき本当に感謝申し上げます。

また来る2022年6月16日に、慶應義塾大学医学部整形外科学教室開講100周年を迎えます。記念祝賀会は、2022年6月11日土曜日にThe Okura Tokyo (ホテルオークラ東京)で開催される予定です。実行委員会による第3回キックオフミーティングが2020年4月10日に、第4回が7月30日に開催されました。こちらもWEBで話し合いをさせていただきました。同窓会員の先生方にはコロナ禍で日本経済が不安定な中にもかかわらず寄附のお願いをさせていただき大変心苦しく思います。少しでもご協力していただければ幸いです。

末筆となりますが、同窓会員の先生方のますますのご発展とご活躍を祈念いたしつつ私からのご挨拶とさせていただきます。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

✕ 研修プログラム参加者の紹介



あいばら のりゆき

相原 憲行

生年月日 1993年8月27日

出身大学 慶應義塾大学

令和2年度レジデントの相原憲行と申します。出身は愛媛県松山市で、幼い頃から野山を駆け回って育ちました。高校は愛光高校に進学し、大学になって親元を離れ、慶應義塾大学に進学しました。

スポーツに関しては高校時代やり投げ

で培った肩を活かし、大学時代は野球部に所属しておりました。大学卒業後は外傷症例の豊富な済生会横浜市東部病院で2年間初期研修を行い、自然と整形外科に惹かれるようになりました。整形外科医としての生活はまだ半年に過ぎませんが、整形外科は患者の運動機能の改善を通じて患者の生命を左右する非常に重要な職業だと実感し、大きなやりがいを感じています。長い整形外科人生、後悔することのないよう真摯に研修に向き合っていく所存でございますのでご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。



あかお しょうたろう

赤尾 翔太郎

生年月日 1992年5月13日

出身大学 福岡大学

2020年度新専攻医の赤尾翔太郎と申します。出身は熊本県、初期研修は熊本大学病院関連で研修致しました。

小学校の頃から大学時代までの約15年間、サッカー部に所属しておりました。続けていく中で、私自身怪我すること

が多くて骨折を4回ほど経験致しました。幼少期に3年間ほど神奈川県に転勤のため住んでいた時期があり、肘の骨折をしたときには慶應義塾大学病院整形外科にお世話になりました。医師になってこちらの整形外科で学ばせて頂くのも不思議な縁だと感じております。

精一杯精進致しますので、御指導御鞭撻のほどよろしくお願い致します。



あつみ りゅうた

渥美 龍太

生年月日 1991年10月29日

出身大学 日本医科大学

令和2年度新専攻医の渥美龍太と申します。現在永寿総合病院で勤務しております。学生時代にストリートダンスで手を怪我することが多かったこともあり、整形外科と接点があり興味がありました。研修時代に整形外科の先生方が生き

生きと手術し、患者さんは手術で元気になり、病棟全体の雰囲気がとてもよかった印象が強いです。特に慶應の先生方は、様々な分野で専門性が高く、とても優しく指導してください、この先生方の元で学びたいと思った為専攻させていただきました。

最高の環境で学ばせていただいているからには、できる限り多くのものを吸収したいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



あんどう さとし

安東 悟司

生年月日 1993年1月26日

出身大学 岩手医科大学

が、研修病院にて素晴らしい先生方と出会い、私も患者さんのQOLに直結した医療を提供したいと考え整形外科を選択しました。

日本医療のトップランナーである慶應義塾大学という場所で研修させて頂けることを幸せに感じるとともに、名に恥じぬよう全力で頑張っ参りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ致します。

2020年度済生会宇都宮病院II型プログラム専攻医の安東悟司です。兵庫県に生まれ、中高で岡山に、1年浪人で大阪に、大学で岩手にと各地を転々とし、東京の済生会中央病院で初期研修を行いました。最初は他科を志望しておりました



いじよん

李 知娟

生年月日 1989年5月22日

出身大学 延世大学（韓国）

あわせて2年で卒業いたしました。

学生の頃より外科系になりたいと思ひ、外傷センターの研修で整形外科になろうと決心いたしました。まだまだ未熟者ですが、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。

2020年度新専攻医の李知娟と申します。出身は韓国で留学の経験はありませんが、学生の頃、慶應との医学生交換プログラムが契機になり、日本に参りました。初期研修医は韓国のセブランス病院で1年、札幌徳洲会で1年研修を行い、



いしはら ひろなり

石原 啓成

生年月日 1993年7月2日

出身大学 慶應義塾大学

月勤務し、10月より慶應義塾大学病院にて働かせて頂くことになっております。8歳の時に交通事故に遭ひ、整形外科で手術をして頂いた時から自然と整形外科医に憧れるようになりました。自身も整形外科医としての一步を踏み出したため、多くの方に貢献できるように一所懸命に精進する所存です。

今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願ひ申し上げます。

令和2年度新専攻医の石原啓成と申します。出身大学は慶應義塾大学で学生時代は競走部に所属し、走幅跳・三段跳を専門種目としておりました。卒業後は川崎市立川崎病院で2年間初期研修を行い、その後も引き続き専攻医として6ヶ



いちかわ たける

市川 武

生年月日 1993年7月23日

出身大学 慶應義塾大学

令和2年度新専攻医の市川武と申します。慶應病院での半年の研修後、国際医療福祉大学成田病院にて後期研修を行っています。大学時代はサッカー部に所属しておりました。2年間の初期臨床研修は済生会宇都宮病院で行いました。

学部2年の際に名倉先生・大木先生・松村先生のもと、バイオメカ教室で肩の研究を行いました。その際に御世話になりました先生方への憧れが元となり、慶應整形外科への入局を決心いたしました。実際に大学で研修してみて、整形外科という領域の奥深さと幅広さを再確認致しました。日々精進していければと思っております。整形外科医としてまだまだ未熟ではありますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



おおさき ひろお

大崎 皓郎

生年月日 1994年2月25日

出身大学 慶應義塾大学

2020年度新専攻医の大崎皓郎と申します。初期研修は佐野厚生総合病院で行い、現在は慶應義塾大学病院にてレジデントとして勉強させて頂いております。小学生の頃からサッカーに慣れ親しんできたため、整形外科には自然に興味を持つ

つようになりました。専攻医になって半年が経ちますが、整形外科の臨床範囲の幅広さを実感するとともに、非常に教育的な指導医の先生方や熱いモチベーションを持つ同期たちのお蔭で日々充実した研修ができております。これからもご指導ご鞭撻のほど宜しくお願ひ致します。



おがた としゆき

緒方 俊之

生年月日 1993年4月6日

出身大学 慶應義塾大学

令和二年度新専攻医の緒方俊之と申します。出身は慶應義塾大学で学生時代は硬式テニス部で活動しておりました。卒業後は横浜市のけいゆう病院で研修を行い、現在は東京歯科大学市川総合病院の2型プログラムとして、前半半年間は同

病院において勤務し、後半に慶應義塾大学病院で働かせて頂く予定です。学生時代に足関節の手術を受け、術後のリハビリからスポーツ復帰までを経験し、日常生活において整形外科医ほど患者様に寄り添い、喜びを与えられる分野はないと思ひ専攻致しました。学生時代に培った体力を元に、一人でも多くの患者様の笑顔が見られるよう日々精進して参ります。整形外科医としてまだまだ未熟ではございますが、今後とも御指導御鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。



かわ ひよん

河 姫暎

生年月日 1993年10月14日

出身大学 筑波大学

2020年度新専攻医の河姫暎と申します。出身は筑波大学で、学生時代は陸上部に所属しており、ハードルを専門としておりました。初期臨床研修は2年間慶應義塾大学病院で行い、専攻医1年目の前半は静岡赤十字病院で勤務させて頂き

ました。

静岡赤十字病院では外来・手術・周術期管理を学ばせて頂き、大変充実した日々を過ごすことができましたことに心より感謝しております。後半は再び慶應義塾大学整形外科で、日本の最先端の医療を精一杯学ばせて頂きますので、御指導、御鞭撻の程、何卒宜しくお願い致します。



こばやし たかゆき

小林 高之

生年月日 1987年6月14日

出身大学 埼玉医科大学

令和2年度新専攻医の小林高之と申します。長野県出身で野山を駆け回り野球や陸上などスポーツに力を注ぎ過ごす中で怪我也多く整形外科は幼少期から身近に感じる科でありました。大学卒業まで野球を続けていたため一つの事柄を続け

られる努力はできると思っています。整形外科になりたいと思い医師になった後に慶應義塾大学病院の整形外科を回らせていただき、この素晴らしい先生方の元で学びたいと思いレジデントとして勉強させて頂いております。

2020年前半は北里大学北里研究所病院で尊敬できる先生方の元で日々整形外科のノウハウを学ばせて頂いております。お会いできる全ての先生を参考に、整形外科の奥深さを学びたく思います。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。



さかもと ひろこ

阪本 碩子

生年月日 1992年2月8日

出身大学 東京女子医科大学

2020年度整形外科レジデントの阪本碩子と申します。初期臨床研修を1年目横浜市立市民病院、2年目慶應義塾大学病院で行いました。中高生の頃からバスケットボール部に所属しており、ACL断裂を経験したことをきっかけに医師を目

指し始めました。怪我から10年たった現在、こうして先生方のもとで学ばせて頂けること大変光栄に思います。

まだまだ未熟者ではございますが、患者様の生活を少しでも良い方向へ手助けできるよう1つ1つの症例から学び、精進して参りたいと思いますので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



しみず としゆき

清水 俊志

生年月日 1991年5月10日

出身大学 慶應義塾大学

2020年度新専攻医の清水俊志と申します。中学・高校時代はラグビーに明け暮れ、大学では競走部に所属し投擲種目を専門に活動しておりました。卒業後は足利赤十字病院で2年間初期研修を行い、2020年度前半は立川病院で外傷・人工関節を中心とした手術を経験致しました。現在は慶應義塾大学病院でレジデントとして勤務しております。患者さんが元気になり笑顔で退院される姿を見て、改めて整形外科の道に進んだことは間違いでなかったと日々強く感じております。

至らぬ点ばかりではございますが、全身全霊で日々の診療に取り組んで参りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



すとう だいち

須藤 大智

生年月日 1992年4月4日

出身大学 群馬大学

令和2年度新専攻医の須藤大智と申します。出身は群馬大学で、大学時代は野球部に所属しておりました。部活ではインカレに出場もしましたが、肩の怪我と付き合いながらで整形外科の先生方にお世話になることも多く、馴染みの深い科

でした。群馬県の太田記念病院での初期研修を経て、4月より慶應義塾大学病院でレジデントとして学ばせて頂いております。

整形外科は患者さんのQOLを改善させることで人生をより豊かにすることのできる素晴らしい科だと思っています。先輩方から多くのものを学ばせて頂き、成長したいと思っていますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



せきね ひろき

関根 大揮

生年月日 1993年12月15日

出身大学 慶應義塾大学

関根大揮と申します。出身は慶應義塾大学で、慶應の学びの庭には慶應義塾中等部時代からお世話になっております。

スポーツは中・高・大と硬式庭球部に所属しておりました。大学卒業後は東京都済生会中央病院で2年間の初期研修を行いました。

整形外科をローテートした際に、先生方のエネルギッシュな気質、手術のダイナミックさ、そして学問としての専門性の高さに強く心を惹かれ、整形外科への道を決めました。

今後高齢化が進むにつれて、より整形外科の需要は高まっていくかと存じますが、一人でも多くの患者様の人生に良い影響を与えることが出来る様な医師になれるよう誠心誠意努力する所存ですのでご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。



たなか りゅうたろう

田中 龍太郎

生年月日 1993年5月22日

出身大学 慶應義塾大学

せていただいております。私自身、学生時代から整形外科を志しておりました。この度歴史ある慶應整形外科を専攻し、その一員として働けること非常に嬉しく思っております。

これから整形外科医として多くを学び、患者様のために精一杯努めて参りたいと思っております。御指導御鞭撻の程よろしくお願い致します。

令和二年度新専攻医の田中龍太郎と申します。慶應義塾大学出身、学生時代はサッカー部に所属しておりました。

初期研修医は済生会宇都宮病院で研修し、本年度より済生会中央病院、慶應義塾大学病院にてレジデントとして勉強さ



たなべ まさる

田邊 優

生年月日 1994年3月11日

出身大学 東邦大学

整形外科に魅力を感じ、整形外科医への道を志望致しました。

慶應義塾大学整形外科は、すべての分野において実績、経験豊富な先生方がたくさんおられ、このような素晴らしい環境で働けることを誇りに思います。一人前の整形外科医を目指し日々精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

2020年度新専攻医の田邊優と申します。出身は東邦大学で、学生時代は剣道部に所属、初期研修は東京歯科大学市川総合病院で修了致しました。

機能外科として患者さんのQOL向上に役立つだけでなく、幅広い分野を持つ整



なかむら そういちろう

中村 宗一郎

生年月日 1993年10月4日

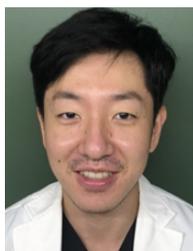
出身大学 山口大学

し、カンファレンスでの活発な討論や先生方の教育的な姿勢、医療に対する情熱に魅せられ専攻を決めました。臨床・研究ともにトップレベルの慶應整形で働けることを大変誇りに思い、楽しい日々を過ごさせていただいております。

整形外科医としてスタートしたばかりの身ではありますが、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

令和2年度新専攻医の中村宗一郎と申します。出身大学は山口大学で部活動はハンドボール部に所属しておりました。

初期研修は山口県の済生会山口総合病院で2年間研修を行いました。研修医のときに、慶應義塾大学病院整形外科を見学



はしもと たけあき

橋本 健礼

生年月日 1992年8月12日

出身大学 日本医科大学

た中学からスポーツを続けていく中でスポーツ整形にも興味が湧き、整形外科医になろうと決心いたしました。半年間勤め、整形外科の領域の広さに戸惑う毎日ですが、これから沢山の経験・知識を吸収できるよう頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

令和2年度新専攻医の橋本健礼と申します。出身大学は日本医科大学で、大学ではハンドボール部に所属しておりました。

前十字靭帯断裂や肩の脱臼など、部活の中で整形外科にかかる部員が多く、ま



はやし ひろのり

林 裕紀

生年月日 1993年6月14日

出身大学 慶應義塾大学

と考えており、初期研修で整形外科の先生方にご指導いただく中で、これほどカバーする範囲が広く、要とされる診療科はないと感じて整形外科を選択しました。

本年度は半年間の国立病院機構埼玉病院での勤務を経て10月から慶應義塾大学病院に勤務いたします。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

2020年度新専攻医の林裕紀と申します。学生時代にはスキー部に所属し、日々トレーニングに励んでおりました。大学卒業後はさいたま市立病院で2年間の初期研修を行いました。

学生の時から外科系診療科に進みたい



はら やすし

原 康

生年月日 1979年7月20日

出身大学 藤田医科大学

おりましたが、整形外科医である父の手伝いをしたいと思い整形外科医を目指しました。

現在、慶應義塾大学病院で知識や手術を磨いております。患者様が笑顔で退院されていく姿を見て整形外科医になって良かったと改めて実感しております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和2年新専攻医の原康と申します。大学ではゴルフ部に所属しておりました。卒業後慶應大学病院で2年間研修し、その後慶應義塾大学整形外科プログラムでお世話になっております。元々、マッサージ師と柔道整復師として働いて



ひらまつ みづき
平松 みづ紀

生年月日 1992年10月9日
出身大学 富山大学

2020年度新専攻医の平松みづ紀と申します。富山大学を卒業したのち、さいたま市立病院で2年間初期研修をいたしまして現在に至ります。大学時代は女子軟式野球部に所属しておりました。機能回復外科で幅広い年齢層のQOL向上に

貢献できる整形外科に魅力を感じ整形外科医を志しました。

現在大学病院で勤務しておりますが、豊富な症例・教育熱心な先生方に囲まれ、日々成長を実感する毎日です。患者さんに信頼される整形外科医を目指し精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



ひろせ としひろ
廣瀬 俊啓

生年月日 1991年6月17日
出身大学 日本医科大学

令和2年度、新専攻医の廣瀬俊啓と申します。出身は日本医科大学で、学生時代はバスケットボール部に所属しておりました。初期研修を北里大学北里研究所病院で行い、今年度より貴科プログラムでお世話になっております。両親が整骨

院を営んでいるため、小さい頃から肩こり、腰痛などで苦しんでいる患者さんに接する機会があり、自分も同様の疾患で苦しんでいる人を治したいと思い、整形外科医を志すに至りました。

少しでも多くの患者様のお役にたてるよう精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻何卒よろしくお願い申し上げます。



ふくしま けいた
福島 啓太

生年月日 1992年12月16日
出身大学 慶應義塾大学

2020年度新専攻医の福島啓太と申します。公立福生病院での研修で整形外科の先生方に魅了されて慶大整形を選びました。1年目の前半は大学でゼロから整形外科の知識を学ぶだけでなく、整形外科医としての心構えも教わりました。コ

ロナの影響で上級医の先生はおろか同期との関わりも希薄になりそうな時期もありましたが、一緒に診療に携わっていく中で慶大整形の包容力の大きさに感銘を受ける毎日です。仕事終わりに飲んだ規制緩和明け久々の院内のスタバの味は忘れられません。

一歩一歩成長できる様にこれからも精進してまいりますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



ふじい ゆうと
藤井 雄斗

生年月日 1993年6月4日
出身大学 日本大学

令和2年度新専攻医の藤井雄斗と申します。現在稲城市立病院で勤務しており、新型コロナウイルス流行で大変な状況ではありますが充実した生活を送っております。

日本大学出身で、大学時代はブラジリアン柔術部に所属しており活動内容と関連する整形外科に興味がありました。初期研修で整形外科をローテーションしQOLと直結する整形外科のやりがいを感じ整形外科医になろうと決めました。

ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが精一杯頑張ります。御指導、御鞭撻のほどよろしくお願い致します。



ますぶち まゆ
増渕 茉侑

生年月日 1989年11月5日
出身大学 近畿大学

令和2年度新専攻医の増渕茉侑と申します。現在、慶應義塾大学病院で勤務しております。出身大学は近畿大学で、部活はゴルフ部に所属しておりました。卒後は、慶應義塾大学病院で2年間初期臨床研修を行いました。

研修医2年目で整形外科をまわらせて頂いた際、慶應整形の明るい雰囲気と先生方の教育的で熱意のある人柄に感銘を受けました。また、整形外科は、患者さんのQOLに直結する科であり、将来の選択も幅広い点に魅力を感じました。さらに、”女性の働きやすい環境を”と多くの先生方がご尽力くださっており、女性医師にとって大変魅力的な環境であると考えております。

まだまだ未熟者ではありますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



まるいわりょうすけ
丸岩 良悠

生年月日 1991年8月27日
出身大学 昭和大学

2020年度新専攻医の丸岩良悠と申します。昭和大学出身で昭和大学病院にて2年間研修した後、本年度から慶應義塾大学病院でレジデントとして勉強させていただいております。私は小中高大とサッカー部に所属しており、そこで培った

フットワークを活かし日々研鑽を積んでおります。また素晴らしい同期にも出会え、互いに切磋琢磨し合える仲間がいることに感謝しています。

先輩方から多くを盗み、一人前の整形外科医になれるよう努めていく次第です。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



もりやま まさとし

森山 昌俊

生年月日 1991年12月3日

出身大学 順天堂大学

2020年度専修医森山昌俊と申します。愛媛県の愛光学園出身であり、先輩方から様々な貴重なお話しをいただきまして、この度慶應義塾大学整形外科の一員として参加させていただきました。大学卒業後しばらく臨床から離れておりま

したが、慶應義塾大学病院での初期臨床研修を経て、このような素晴らしい環境で整形外科医としての第一歩を踏み出すことができましたととても幸せです。

以後様々な関連病院で働かせていただける予定となっておりますので、御指導御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



やまぐち さくら

山口 桜

生年月日 1992年9月23日

出身大学 北里大学

新専攻医の山口桜と申します。私は整形外科医であった父の姿を見て育ち、幼い頃から医師になることが夢でした。医学生の際に日本の医療の最前線である慶應義塾大学整形外科で勉強したいと強く思うようになり、慶應初期臨床研修プロ

グラムを経てついにここで整形外科医としてのスタートを切ることができました。

4年間の研修プログラムの中でトップレベルの先生方にご指導いただける環境に感謝の気持ちを忘れず、患者様ひとりひとりを大切に多くのことを学んでいきたいと考えております。努力して参りますのでご指導賜りますようお願い申し上げます。

編集後記

本来ならば2020年は同窓会誌「ふるさと」発刊年でしたが、COVID-19大流行の未曾有の事態により、昨年引き続き第3号となる慶大整形外科ニュースレター2020を発刊させていただきました。今後の状況次第ですが、2021年にはCOVID-19特集、2022年には開講100周年特集の「ふるさと」を発刊したいと考えております。新型コロナウイルスの1日も早い終息を心から願っております。

いよいよ2年後に迫った教室開講100周年にむけて準備を進めております。別紙でお願いさせていただきましたが、同窓会員の先生方から多くの寄稿を頂戴したいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。また「100周年記念誌」において掲載する資料は残念ながらまだ揃っていません。もしお手元に教室に関する写真や資料などをお持ちの先生がいらっしゃいましたら、些細なものでも結構です。お借りできれば幸いです。私、松村 (noboru18@gmail.com) までご連絡をお待ちしております。何卒よろしく願いいたします。

松村 昇 (81回)